



第5回中曽根康弘賞受賞者名簿（2009年6月26日授賞）

1 渡辺 将人（わたなべ まさひと）（優秀賞）

年齢：1975年2月6日生れ（34歳） 国籍：日本

所属：ジョージ・ワシントン大学シグール研究センター客員研究員

授賞理由：ジャーナリスト活動の経験を踏まえ、いわば草の根の活動として、アジア系アメリカ人集団のプレゼンスや政治参加の向上に大きく貢献し、アメリカ大統領選挙のアウトリーチ活動を分析、次期政権を民主党と予見し、オバマ政権の動向を注視してきたことなど、宗教、人種など複雑な要素が絡む選挙の過程を通じた、アメリカにおける民主主義について体系的に研究をまとめた意義は学術的にも大きい。これらの活動や研究による日米相互理解の促進を通じ、アジア太平洋地域の平和と繁栄の基礎となるべき土台作りへの貢献は、今後、大いに期待されるものである。

2 辰巳 由紀（たつみ ゆき）（奨励賞）

年齢：1971年2月15日生れ（38歳） 国籍：日本

職業：米スティムソン・センター シニア・アソシエート

授賞理由：アメリカのシンクタンクや在米日本国大使館の勤務を経て、アメリカの政府機関とも交流を築きながら、日米関係にかかる研究を行うとともに、集団的自衛権の行使や国連平和維持活動などの日本の外交・安全保障に関する問題、中国や韓国などの日本の近隣諸国との関係などに対して、これまでに自国の立場や状況について正しく相手に理解しやすい形で積極的に説明する努力を続け、理解者を着実に増やす活動も行ってきた。日本及びアジアの立場を正しくアピールする活動や研究は、誤解や偏見を取り除いて相互理解を進め、アジア太平洋地域の安定と発展に結びつくものとして、高く評価されるものである。

3 Kim Tae-hyo（キム・テヒョ）（奨励賞）

年齢：1967年2月23日生れ（42歳） 国籍：韓国

所属：大統領府 対外戦略秘書官

授賞理由：アメリカ及び日本で政治学の研究を行ってきた経験を基礎に置いて、韓国とアメリカ、韓国と日本、アメリカと日本、それぞれの国相互間にある状況や問題点などを分析し、それぞれの置かれている立場を踏まえて、現実的な視点から、北東アジアの平和と安定のために、安全保障のためにあるべき協力関係などについての研究や提言を行ってきたことは、アジアの平和と安定に資するものとして、今後、大いに期待されるものである。

4 今村 文彦（いまむら ふみひこ）（奨励賞）

年齢：1961年9月24日生れ（47歳） 国籍：日本

所属：東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター津波工学研究分野

授賞理由：一貫して津波に関する研究・教育・啓発活動を国内外で展開し、各地での津波防災の啓発や技術の普及に対して中心的な役割を担ってきた。特に、2004年のスマトラ地震・インド洋大津波の被災地域について被災直後から被害メカニズムの解明、復旧・復興活動、警報システム構築の技術支援、現地からの研究生や留学生受け入れなどを精力的に行ってきた。これらの活動は、アジア・太平洋地域の津波危険国の津波科学の発展及び津波災害防止技術の向上に寄与するものである。